

技術のおたずねにこたえて（生材に巣くう虫）

〔おたずね〕 今年の春新築した家のビニルクロスに直径8～10mmぐらいの穴があき、虫がでてきました。ビニルクロスの下はせっこうボードで、その下の柱はエゾマツだと思います。対策を教えてください。（S市 D生）

〔おこたえ〕 穴の中から出てきた虫を見ないと、被害の状況を推定し、対策を立てるのは困難ですが、おおよそ以下のようなことが考えられます。

まず虫の出てきた穴（脱出孔）の大きさと、使われている材料から考えて、この被害は生材に寄生する虫によるものと考えた方が妥当でしょう。したがって、ヒラタクイムシ、シバンムシおよびナガシクイムシなどの乾材害虫の被害ではないと思われます。乾材害虫には、このほかにカミキリムシの一種も知られていますが、この被害は道内では見つけられていません。

生材につく虫には大別して、クイムシ、カミキリムシ、ゾウムシなどの類があります。これらは、成虫がそれぞれ比較的特徴のある形をしていますが、いずれも立木が何らかの理由で弱っている時や伐採されて土場に皮付きのまま保管されている時に、樹皮やそのすぐ下に卵を産みつけます。これらの卵はふ化してから幼虫、さなぎを経て成虫になりますが、年1～2回のサイクルで世代交

代をくり返します。その速度は周囲の温湿度環境などに左右されるようです。幼虫の世代に木材を食害する時には、樹皮のすぐ下だけを食べる種類と材中深く穿孔していくものがあります。脱出孔の大きさから考えれば、被害を与えた虫はカミキリムシかゾウムシあるいはキバチであると思われます。

おたずねの場合には、次のようにして被害を受けたものと想像されます。つまり、土場での保管時に産卵を受け、その製材を人工乾燥せずに建築材料として使用した結果、産卵を受けた部分で卵がふ化し、成虫となって飛び出してきたものと思われる。でてきた成虫は皮付き生丸太以外には卵を産みつけることはできませんから、これらの被害が広がることはありません。もちろん、虫を材中にとどめたまま殺してしまえばよいのですが、家に使われている状態で加熱処理することはできません。防虫剤や殺虫剤で処理する方法も考えられますが、薬品が材中に十分浸み込むことはありませんので、効果はあまり期待できないでしょう。成虫がすべて出つくしてから、脱出孔を何らかの方法でふさぐだけでよいのです。ただし、柱の食害のされ方がひどく、構造的に不安が残るのであれば、補強しておくといよいでしょう。

（林産試験場 木材保存科）